

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>作物栽培の基本と実践力を身につけ、高収益栽培法について理解するとともにその栽培技術が習得でき、生産と流通、消費についての理解が深まることで、科学的に物事を思考し判断する能力と実行・実践する技術力が備わることを目標にしている。授業の中で、その基礎を学び、自らが考え行動し応用力を培うことが将来へつながる道である。そのためには何事に対しても「何故」という疑問を持ち、問題点を探り当て、解決方法を実行に移すことが必要である。</p> <p>農業基礎実習では、作物を観察する目を磨き、作物を育てることの体験、収穫の際の満足感をおとし農業のすばらしさを伝えていく方針で進めているが、学生の中には、関心の薄い学生も散見される。</p> <p>座学では、実践に必要な知識・技術につて習得し、自ら考えることができる能力が身につくよう努めて、全ての学生に満足行く授業できるよう努めている。また、野菜実習では、北海道での最新の野菜栽培技術をとおして、実践的野菜栽培管理技術について学ぶとともに、最新技術についても体得することを目標としている。学生が、初めて自分で種をまき、作物にふれ、収穫の喜びを体験し、レポート作成をとおして成長していると確信している。</p>										
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>講義については、興味がわくように配布プリントや板書に工夫を凝らし、ppt 等も使用した。また、科目によっては小テストを実施し、知識習得の再確認を行っている。野菜実習の班分けについても興味のある作物を中心に学生に分担させ、積極的に作業できるように工夫し、市場視察や試験場視察などを取り入れている。</p> <p>また、北海道では栽培の少ない作物や養液栽培などをわかりやすく取り入れて、さらに興味を引く講義・実習にしてきているが、より理解を深めるよう努めたい。</p>										
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>教材については、教科書の使用及びプリントを作成し、野菜実習では実習結果をまとめ担当学生の発表方式をとり目的、内容、結果の周知を行った。</p>										
<p>5 学生の指導（課外活動・厚生補導等）</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>果樹研究会顧問</td> <td>深川果樹園視察、講習会への参加</td> </tr> <tr> <td>海外研修希望者支援</td> <td>帰国者報告会、各農業交流協会説明会の開催</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	果樹研究会顧問	深川果樹園視察、講習会への参加	海外研修希望者支援	帰国者報告会、各農業交流協会説明会の開催						
果樹研究会顧問	深川果樹園視察、講習会への参加										
海外研修希望者支援	帰国者報告会、各農業交流協会説明会の開催										
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>										
<p>研 究 業 績</p>											
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>・パブリカの高設養液栽培（楽々ベンチ）における栽培法の検討をおこない、今までの整枝方法の改善が示唆された。サツマイモの7月植えは深川市に於いて収量が期待できないことが明確になった。ラッカセイの深川市における収穫適期を明らかにし、病害についての被害が明らかになった。サツマイモ、ラッカセイの北海道での栽培拡大に努めていく。アスパラガス露地栽培の連作の検討をおこない、今後、その影響を明らかにする。キノア栽培の可能性に関する研究をとおして北海道における栽培方法の確立に近づいた。北海道育種メロンの安定生産技術の検討をとおし学生にメロンの魅力を伝えていく。北空知地域に適した種子食用カボチャ収穫適期はある程度幅が考えられた。四季成り性イチゴの適切な葉面積を明らかにし、給液量、給肥量と収量と養分吸収量について検討中である。</p>										
<p>2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む)</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>・パブリカの給液量の検討。 ・サツマイモの品質向上栽培法並びに北海道にあった品種の検討及び育苗方法の検討。 ・ラッカセイの安定生産技術の検討。 ・四季成りイチゴ養液栽培における葉面積と給肥量についての検討。 ・深川市における種子食用カボチャの安定生産技術の検討。 ・ヒヨコマメの試作。</p>										
<p>3 研究助成等 (主要5件程度)</p>	<p>(1) 文部科学省科学研究費</p> <p> </p> <p> </p> <p>(2) 学内</p> <p> </p> <p> </p> <p>(3) 学外</p> <p> </p> <p> </p>										

4 資格・特許等 (主要 3 件以内)		北海道農業改良普及員資格			
		専門技術員資格 (野菜及びいも類)			
		技術士 (農業部門)			
著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)		単著、 共著 の別	発行又は発表の 年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
富栄養土壌における緑肥作物のクリーン ング効果比較		共	2019 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 52号	
メロン 1 番果着果節の上位葉・下位葉の 摘葉が果実の品質、肥大に及ぼす影響		共	2019 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 52号	
給液量・給肥量がパプリカの収量に及ぼ す影響		共	2019 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 52号	
大玉トマトにおける側枝利用 2 本仕立て 栽培が果実に及ぼす影響		共	2019 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 52号	
パプリカ土耕栽培における 1 番果着果節 位が収量に及ぼす影響		共	2020 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 53号	
深川市における『出雲おろち大根』‘スサ ノオ’の栽培可能性		共	2020 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 52号	
深川市におけるサツマイモ品種の塊根肥 大特性		共	2020 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 52号	
サツマイモの貯蔵期間が糖度・糊化開始 温度に及ぼす影響		共	2020 年 3 月	北海道園芸研究談話会報 52号	
研究業績 (過去 3 力年分)					
著作数	論文数	学会等 発表数	その他	国際的活動 の有無	社会的活動の 有無
2	1 2	1 2	3	有	有
学 内 運 営 業 績					
1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)		<ul style="list-style-type: none"> ・学生・地域国際交流委員会 委員長 学生指導一般、深川国際交流協会都の連携、拓大海外研修への学生派遣支援 			
学 外 活 動 業 績					
1 本学以外の機関 (公的 機関・民間団体等) を 通しての活動 (主要 10 件程度)		<ul style="list-style-type: none"> 北空知農業振興談話会 地域農業振興に対する助言 NPO 北海道インターナショナル協議会 理事長 JICA 青年研修受入れ、JICA 各種事業参画、市民講座の開設 北海道養液栽培研究会 運営委員 現地研修会、冬季講座の開催 北海道さつまいも懇話会 会長 現地研修会、情報交換会の開催 北海道試験会議 外部有識者 試験研究成績、設計の検討 北空知農業後継者育成支援協議会 総会、北育ち元気塾の開催 			
2 学会・学術団体等の活 動 (主要 10 件程度)		<ul style="list-style-type: none"> 農業食料工学会 北海道農業普及学会 園芸学会 日本技術士会北海道支部 北海道果樹懇話会 北海道園芸研究談話会 作物学会北海道談話会 			